

岐阜国体（1965年）

国体とは「国民体育大会」のことを言います。毎年開催されている国内最大かつ最高の国民スポーツの祭典です。

「冬季大会」と秋の「本大会」の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催され、天皇杯(男女総合成績第1位)・皇后杯(女子総合成績第1位)の獲得をめざし、都道府県代表の選手が熱い戦いを繰り広げます。



国体の目的は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものです。

国体のはじまり

戦後の混乱期の中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催されました。

毎年、都道府県持ち回りで開催され、岐阜県では、昭和40年(1965年)に開催されました。そして、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目国体が開催されています。2012年の岐阜清流国体は、岐阜県で開催される2度目の大会になります。

では、1965年(昭和40年)、今から47年前に岐阜で開催された岐阜国体の様子を写真等で紹介します。



↑これはJR岐阜駅(当時は国鉄岐阜駅)前ロータリーの様子です。モニュメントには「歓迎 国民体育大会」の文字が見えます。全国から多くのスポーツアスリートが岐阜へ

来るので、それを歓迎するために、県民が心を1つにしてがんばったそうです。



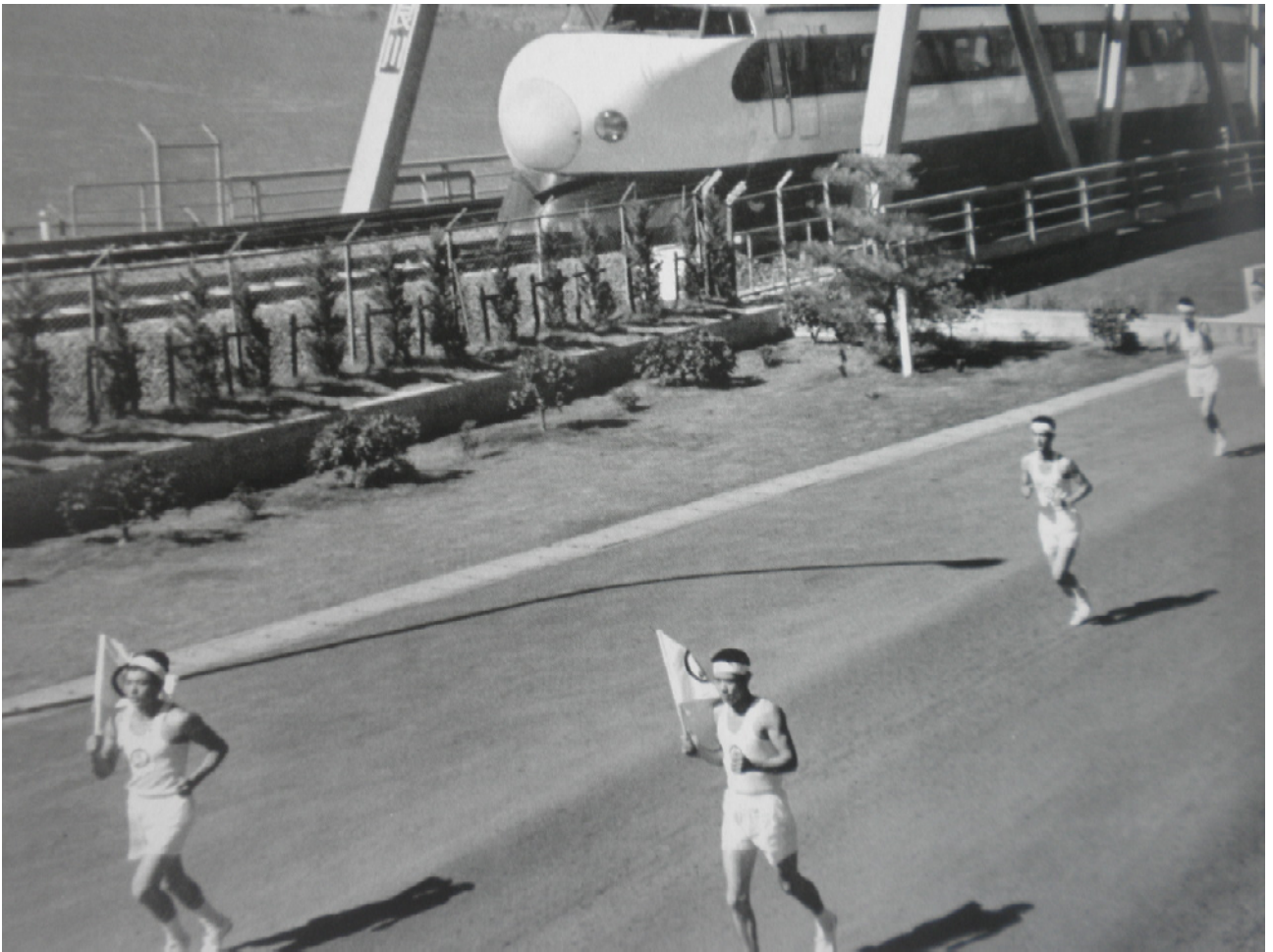
↑国民体育大会開会式の様子です。この様子はNHKテレビを通して全国に放送されたそうです。



←

国体の「炬火リレー」といって、国体の旗と聖火が岐阜県各地をリレーをして回りました。

岐阜県庁の南側を通過するランナー



新幹線岐阜羽島駅付近の道路を通過する選手たち。



↑各務原はラグビーフットボールの会場として使われました。